

2022年度 織田きもの専門学校 自己評価報告書

作成日 2023年4月3日

はじめに

2022年度の事業計画に対して、その進捗や達成度を確認する観点にて自己点検評価を実施した。ただし、事業計画の内容の多くは単年度、短期的なものではなく、複数年に亘る長期的な視点での目標、計画である場合が多い。本学においても、普遍的な課題であったり達成基準の無い目標も多く設定されている。それらに関しては到達という観点ではなく、取り組みに対して真摯であったかどうかを評価の軸としている。※尚、評価は4～1の数値にて表す。適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切・未実施…1 長期的に本学の教育理念に沿った理想的な学校とするべく、その過程における当年度の1歩について以下に評価を報告する。

学校の理念と教育目標

理念

- ・21世紀の社会及び産業界において必要とされる人材の育成。

目標

- ・「明るい挨拶良い返事」「低賞感微」を生活理念としたコミュニケーション能力の修得。
- ・和服及び日本文化に関する幅広い知識と技術の修得。

重点的に取り組んだ目標及び計画等

- ・毎日の実習で技術を向上させ、さらに選択科目を各自が将来の就職を見据え、選ぶことで授業への意欲が高まるよう取り組んだ。
- ・二本の柱。①日本文化の継承である「きもの」の基本を守る。②「きもの」の新しい世界への挑戦。
- ・産学コラボレーション企画
- ・着物業界が集結したイベント「日本橋きものサローネ」への参加
- ・きものを日本の文化として発信していくこと（イベント、SNS等）

1. 教育理念・目標

評価項目	評価	評価内容	課題
理念・目標・育成人材像は、定められているか。	4	理念等はWEBサイト、学生のしおり等を通じて公表し、教職員、学生、保護者等に周知されている。	時代や社会情勢の変化も鑑みながら必要により改訂を検討していく必要がある。
学校における職業教育の特色が明確になっているか。	4	学校案内、WEBサイトにて打ち出し、企業と連携した授業内容を公表している。	業界で求められる人材像の変化をとらえながら、職業教育に必要な内容を検討していく。
各学科の教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	産学コラボを通して企業との連携を取ることで、学生の就職先の選択肢を増やすことや就職後に役立つ授業の編成に繋げている。	次世代に向けて、さらに企業との連携を深め、日本文化を国内だけでなく、世界にも発信していく。
学校の教育理念に沿った①アドミッションポリシー ②カリキュラムポリシー ③ディプロマポリシーを設定または改訂できたか。	4	昨年度の学校関係者評価委員会でいただいたご意見を踏まえ、3つのポリシーの再確認を行い、WEBサイトで公開した。	次年度も同様に再確認を行い、WEBサイトでの公開を続けていく。
コメント			
①アドミッションポリシー②カリキュラムポリシー③ディプロマポリシーはそれぞれ既に明文化し公開している。			

2. 学校運営

評価項目	評価	評価内容	課題
教育理念・目標に沿った運営方針が策定されているか。	4	普遍的な教育理念なので、常にそれに沿った運営をしていると考えている。	時代に沿った教育理念の見直し今後引き続き行っていく。
学校関係者評価を有効に活用できたか。	3	学校関係者評価報告書で指摘のあった内容および企業講師の方々からいただいたご意見をカリキュラムへ反映するよう努めているが、まだ検討中のものもある。	引き続き、貴重なご意見をカリキュラムに反映していく。
入学定員は適正に設定されているか。	4	教員の目が十分に行き届く範囲内の人数で募集できている。	学生に対して十分なスペースを確保し教育に当たれているが、入学者数によって状況が変わることもあるので、適宜見直しを行っていく。
効果的な教育成果を得ることを目的として教育課程の見直しがされたか。	4	企業人外部講師と連携してカリキュラムを作成し、感染症の状況を伺いながらも多くを実施できた。学生のモチベーション維持に繋がったと考える。	この体制を引き続き維持していく。
各種検定の合格率向上のためカリキュラムの再確認及び改訂が行われたか。	3	各種検定合格に向けた講座を授業内に設け、検定の実施も学内で行える体制を整えている。	学生間による学力差をどう埋めていくのかを検討し引き続き指導に当たっていく。
外部企業等に強い外部講師等は有効に活用できたか。	4	企業人を外部講師として迎え授業を行っており、卒業後の学生の就職先としても受け入れていただいている。	企業人講師による授業の更なる拡充。
コラボ企業や就職先等から教育ニーズを聴取したか。	4	各企業と連携したコラボ授業を実施する中で聴取している。また、企業の方に直接ご来校いただき、学生とのコミュニケーションの機会を提供いただいていることで、学生の視野が広がったように考える。	引き続きこの環境を維持していく。
情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	クラウドワークフローシステム等が整備されている。	DXは十分に進んでおり、この体制を維持していく。
コメント			
日本の伝統文化として着物を後世に伝えていくには、企業人による協力が必要不可欠である。また、着物を作る技術だけでなく、知識の向上も図っていく。			

3. 教育活動

評価項目	評価	評価内容	課題
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか。	4	教育理念に沿ったカリキュラム編成がなされている。	今後もこの姿勢を継続していく。
教育カリキュラムは体系的に編成されているか。	4	毎年修正を加えながら体系的にカリキュラムが編成されている。	今後もこの姿勢を継続していく。
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立って、カリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	企業人講師を迎えることで、実践的な教育方法の創意工夫に努めている。	今後もこの姿勢を継続していく。
実践的な職業教育（産学連携教育、インターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	4	コラボ企業から直接授業を受けられるようにカリキュラムに編成している。	企業を迎える授業を実施しており、この体制を維持して更なる教育内容の充実化を図っていく。
授業評価を実施し、その評価体制はあるか。	4	各期末のテストだけでなく、学内コンクールを開催することで学生達の技術の進歩を評価する機会を設けている。	今後もこの姿勢を継続していく。
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	成績評価・単位認定の基準は学則に記載されており、明確になっている。年2回成績表を学生に情報共有している。	特になし。
教員間で様々な悩みについて共有できる職場環境であったか。	4	定期的にコミュニケーションを取る機会を設けており、各教員の状況に合わせて対応している。	引き続きより良い職場環境を整え、学生に提供する教育の質を上げていきたい。
教員のスキル向上のための研修や自己啓発は推進できたか。	4	技術研修を実施し、教員のレベルを必要な水準以上に保つようにしている。	引き続きこの姿勢を継続していく。
コメント			
教員の技術力、人間力のレベルを向上できるように努め、それぞれの個性も生かし、学生の対応にあたっている。			

4. 学修成果

評価項目	評価	評価内容	課題
生活支援の充実化は図れたか。	4	奨学金制度は要項などが届くたびに学生達に紹介した。	今後もこの姿勢を継続していく。
教育支援の充実化は図れたか。	4	教員は授業終了前に必ず質問があるかを学生に尋ね、放課後、質問のあった学生に対しての指導を行っている。	より学生が質問しやすい環境作りに努める。
就職支援の充実化は図れたか。	4	1年次より就職ガイダンスを行い、キャリアセンターと連携することで、就職相談を常に受けている。	卒業生への就職支援も継続して実施し、より充実させていく。
コメント			
特になし。			

5. 学生支援

評価項目	評価	評価内容	課題
退学率の客観的数値(前年度比較)は改善したか。また、退学原因の分析と対応策の検討、実施はされたか。	2	通信制の高校に通っていた学生を中心にメンタルヘルスに問題を抱えがちであり、不登校のまま退学に至ることがあった。	通信制の学校に通っていた学生を中心に、これまで通学の習慣が無かった学生のメンタルケアを検討していく。
学生のメンタルヘルス対応は積極的に取り組めたか。	3	外部の専門機関と連携したメンタルヘルス相談体制を整備している。	相談体制の認知向上に努めていく。
卒業生への支援体制はあるか。	3	既卒者への就職指導もキャリアセンターと連携して行っており、実際に利用した卒業生もいた。	引き続きキャリアセンターの周知をより卒業生に浸透させていく。
学生情報の教職員間での共有は効果的に行えたか。	4	キャリアマップのメッセージ機能を全学年で閲覧できるようにし、学生情報を共有している。	より共有しやすい環境作りに努める。
保護者との連携は適切だったか。	4	メール配信等で家庭との繋がりを密にしている。必要に応じて個々の家庭と連絡を取り合い、対応にあたっている。	2023年から対面での保護者会を実施予定であり、より密なフォローを行っていききたい。
コメント			
メンタルに問題を抱えている学生が一定数いるが、保護者と連携しサポートを続ける。学校としては学びの環境を維持し、卒業・就職へと繋がるようにフォローを続けていく。			

6. 教育環境

評価項目	評価	評価内容	課題
卒業生・在校生・学校間のネットワーク構築への取り組みについて進捗・改善は見られたか。	4	WEBを活用した就職・転職支援を行っており、在校生卒業生問わず利用可能となっている。	特になし。
施設・設備は、教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	3	学生数の増減により、適切な環境が整えられないこともある。だが、防災に対する水、食糧など備蓄品の確保は十分に成されている。	防災に対する施設の補強を整える。
コメント			
備蓄品の準備はあるが、防災の面からしても、学生数の増減にとらわれずに、学生一人一人のスペース確保を十分に整えることを検討していく。			

7. 学生の受入れ募集

評価項目	評価	評価内容	課題
OC参加者の増加は達成できたか。	3	参加者数自体は感染症前の状況に少しずつ戻ってきているが、地方からの参加者は已然として少ない。	引き続き広報と連携し、遠方からでも学校について知れる機会を増やしていきたい。
OCからの取り込み率は向上できたか。	2	大学進学検討者の増加によって、取り込み率が下がったと感じる瞬間が幾度かあった。	大学進学とは違った魅力をいかに発信し、きものに興味のある層にどうアプローチしていくかが引き続きの課題である。
学生募集における学校の訴求ポイントについて広報と協議の上で決められたか。	4	企業コラボレーションを中心とした実践的なカリキュラムを強みとし、広報と意識を共有し発信できた。	入学検討者にとってより魅力のある内容のカリキュラムを引き続き分析していきたい。
広報物の訴求の一貫性を図れたか。	4	DMの内容を少しずつ変化させより多くOCに参加してもらえよう取り組んでいる。	効果的なDMの見え方を今後も検討していく必要がある。
広報物の制作にあたり、学校と広報とで意見交換が図られたか。	4	広報担当者は度々職員室に訪れて情報共有やお互いの問題点を話し合っている。	今後もこの姿勢を継続していく。
広報担当スタッフとの連携を強化できたか。	4	OCの前日、担当者と参加者の情報を共有している。	もっと学校の魅力が発信できるように話し合い共有してゆきたい。
OC時の参加者対応スキルの向上は図れたか。	4	参加者への対応は学生・教員で、丁寧に対応している。学生は当日、学校の授業の様子や実習内容を参加者に話してくれている。	学生達は笑顔で対応にあたってくれている。今後も学生の協力を得て、この姿勢を継続していく。
OCの結果等の分析や、コース内容のブラッシュアップ等について学校と広報とで十分な意見交換ができたか。	4	広報と意見を交換しつつ、リピート参加でも楽しめるようなイベント作りを心がけている。	参加者の目線になって可能な範囲で内容をブラッシュアップしていく。
SNS等、学校の認知PRは適切に行えたか。	4	Instagramの更新や、学校を紹介する動画をYouTubeにアップして外部の人々に学校を知ってもらえるように努めている。	SNSをより活用し、認知の幅をさらに広げていきたい。
コメント			
感染症にも十分気を付けて対面でのOCを実施できた。大学進学検討者が増えたことに対し、別の切り口で本校をアプローチする方法を模索していく。			

8. 財務

評価項目	評価	評価内容	課題
経営感覚の教職員間での共有は図れたか。	3	全員で学校の収支状況を共有し状況が悪いことは全員自覚している。学生数を増やし支出を押さえる意識を持っている。	外にアピール出来る新しいことを如何に支出を抑えて、かつ教育の質を下げない様に実行するか考える必要がある。
財務改善への取り組みは推進できたか。	4	決算後に管理職に対して数値の説明を行った。管理職は必要に応じて他の教職員と情報の共有を行った。	具体的な収支改善への取り組みについて、教職員から主体的な提案があるような空気の醸成に努めたい。
コメント 特になし。			

9. 法令等の遵守

評価項目	評価	評価内容	課題
コンプライアンス意識を再確認できたか。	4	「コンプライアンス規程」を明文化し、教職員間に意識の共有を図った。	今後も、現代の社会情勢を鑑み、明文化した内容の改訂を必要に応じて行っていく。
自己評価の結果を公開しているか	4	自己評価を行い、現状の実態の把握・理解、問題点の改善に努めている。	今後も適切な情報公開に取り組んでいく。
コメント 今後も財務情報や自己評価報告書等学校情報について公開していき、適切な学校運営を継続させていく。			

10.社会貢献・地域貢献

評価項目	評価	評価内容	課題
地域や地方公共団体と連携し、受託等を積極的に実施しているか。	4	中野区が協賛する地域イベント「アールブリュット」に参加した。作家さんの描いた絵をイメージして、きもののコーディネートに取り入れて展示した。	今後も地域貢献に繋がるようなイベントのお誘いがあれば、可能な限り参加したい。
コメント			
特になし。			

11.国際交流

評価項目	評価	評価内容	課題
国際交流を推進する体制は整備されているか。	4	香港のTV番組で取り上げられるなど、協力できる範囲で国外のメディアへの出演協力も行った。	今後もSNSで発信を続けるなど、国外の方にも見て頂ける機会を作っていきたい。
コメント			
特になし。			

おわりに

数少ないきもの教育機関として、業界と連携した授業を積極的に取り組んでいる。きもの良さを身近に感じてもらえるように日本の中だけでなく世界に向けても発信していく。伝統としてのきものを後世に残すことの意義や、それを担う教育機関の責任を意識し、新しいきもの魅力を見出し、日本文化としてのきものを積極的にPRしていく。そして、きものを次世代へ繋ぐ、確かな技術と知識を備えた人材の育成を行う。

また、きもの業界低迷の影響を少なからず学校も受けており、一層経営が厳しくなったことは否めない。しかし、そんな中でも本校が学生に対して提供する教育の品質をさらに上げていくことは変わらない命題としたい。

今後はきもの業界全体を盛り上げるべく、企業との連携をより強くし、教育の質の向上や学生募集、就職に繋げていけるように努めたい。